

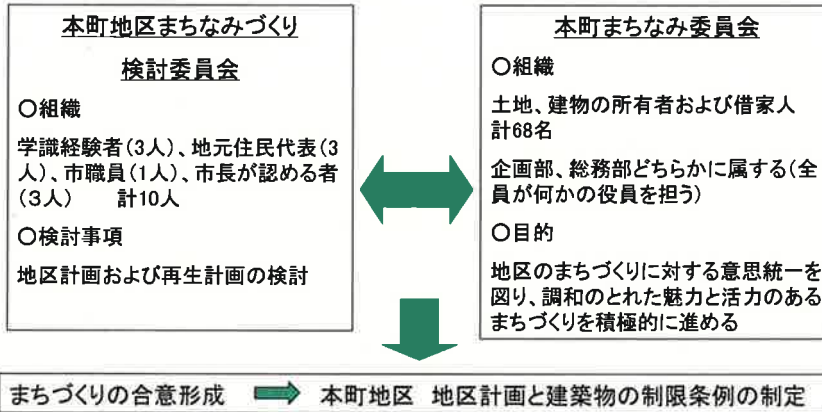
夢京橋キャスルロード



整備前の様子



まちづくりの組織としくみ



まちなみ景観再生事業の経緯

①

- S61.1
都市計画道路本町線事業実施の説明会。街路整備に併せて、城下町らしいまちなみ景観を再生することについて提案される。
- S61.12
行政主導の『本町地区まちなみづくり検討委員会』と地元地権者全員参加(68件)による『本町地区まちなみづくり推進懇談会(本町まちなみ委員会に改称)』が組織される

事業の経緯②

整備前



整備後



- S63.4 「地区計画」の都市計画決定
- S63.7 「建築物の制限に関する条例」公布
- S63.9 「本町地区まちなみづくり建築審査会」の発足
- H6.11 地区計画の区域の拡大変更(3.0→3.1ha)
- H11.5 完成式典

本町まちなみ委員会の活動

まちなみ委員会



モニュメントの設置



- 「本町地区まちなみづくり相談室」の設置(個人の所有している住宅を開放)
- 「まちなみづくり通信」の発行(月2回の定期発行)
- 「まちなみ愛称」の決定(市民公募により夢京橋キャッスルロードに決定)
- 「まちづくりの先進地視察」を計16回行う(女性だけの視察も行う)
- 愛称ステッカーやモニュメントの設置

まちづくりの評価

夏 ゆかた祭り



秋 城祭り



・ まちの賑わい

- ①彦根城観光から街なか観光の流れ(0→20～25万人/年)
- ②商業施設の増加(27店→45店)
- ③イベントの創設(春→花より団子祭り、夏→ゆかた祭り、秋→招福まねき猫祭り)

成功の要因

コンセプトはOLD NEW TOWN



話合いが行われた「まちなみづくり相談室」



T (時)

建物の老朽化、商店街の空洞化、日本経済も右肩上がり

P (場所)

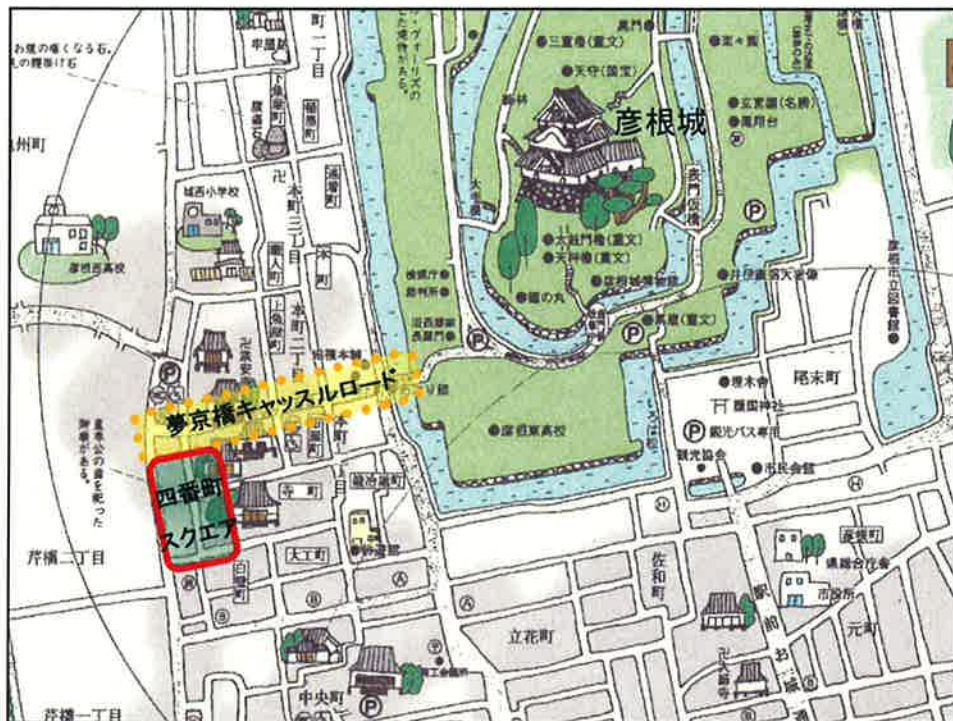
彦根城に近い、間口狭いが奥行き広い

O (誘因)

保守的な土地柄(誇り高く付き合い深い)

公共事業の資金を活用(建物補償、用地買収費、修景対策補助金)

人の熱意(建築家のアドバイス、リーダー・サブリーダーの存在、行政の支援)

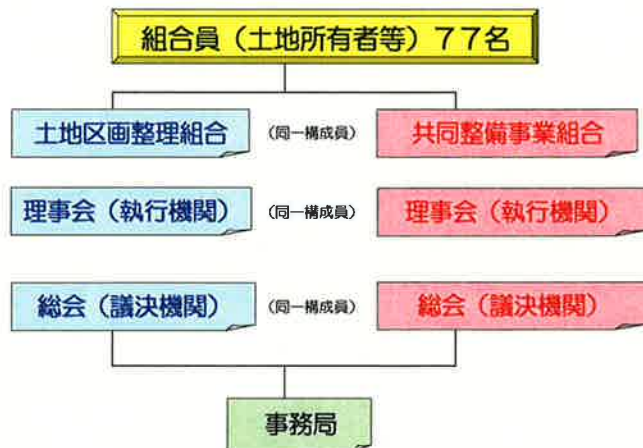




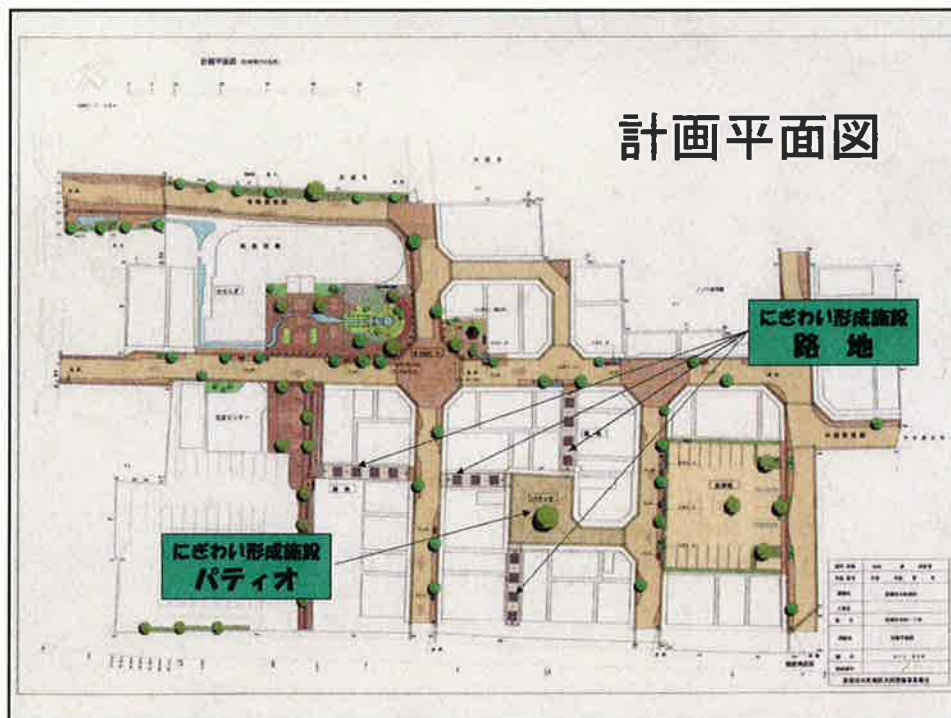
再生に向けて

- 平成 8年12月 檄の会の結成(若手商店主が新たな街づくりを提言)
新たにD地区に商業集積を図るための検討を始める。
- 平成10年 7月 彦根市本町土地区画整理組合準備委員会(ほんまち夢工房)を設立
- 平成11年 8月 「彦根市本町土地区画整理組合」 設立

組合組織図



計画平面図



共同整備事業組合の事業内容

まちづくり協定委員会

1. 建築・景観ルールブック
2. 福祉のまちづくり基準
3. まちの全体模型
4. マスターアーキテクトによる景観調整

にぎわい再生委員会

1. パティオの活用
2. せせらぎをつくろう
3. パーゴラ、植栽、ベンチ等休憩施設
4. 市場地蔵の復活
5. 商店街組合との連携

テナントオーナー会

1. 業種にテナント募集活動
2. テナント相互間の調整

はいから倶楽部 (市場おかみさんの会)

1. プランターによる花づくり
2. 菊花展の開催
3. 地域女性の意見聴取
4. まちの声を事業計画に

